

日本台湾交流協会設立 50周年を祝して

経済産業大臣 西村康稔



公益財団法人日本台湾交流協会が設立50周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

2020年から世界的に流行した新型コロナウイルス感染症の拡大に際しては、私が新型コロナ対策担当大臣を務めていた際、日本からの新型コロナウイルスワクチンを供与したのに対し、台湾からは医療用マスクや酸素濃縮装置、パルスオキシメーター等を提供いただきました。まさに、「まさかの時の友こそ、真の友」であります。台湾は、我が国にとって、自由、民主主義、基本的人権、法の支配といった基本的価値を共有し、緊密な経済関係と人的往来を有する極めて重要なパートナーであり、大切な友人ですが、困難なときにこれを再確認することとなりました。

経済面でも日本と台湾の関係は強化されております。2021年の日台間の貿易額は882億ドルと過去最高を更新し、2015年と比較して約1.5倍となりました。また、あらゆる産業の基盤である半導体のサプライチェーンにおいて、台湾は我が国にとって重要なパートナーで、同志国・地域との連携を通じて、その強靭化を進めていくことは重要です。現在、日台企業が協力して、熊本県で半導体製造工場の建設が行われているほか、筑波で最先端半導体の共同研究が行われております。そして、半導体人材育成のために日台間で協力して取り組んでいく機運も高まっています。

このような緊密な日台関係がある背景には、貴協会が50年の長きにわたり各方面での日台交流に貢献してきたことがあると思います。

例えば、貴協会が2013年度から推進されている「日台産業協力架け橋プロジェクト」を通じて、台湾企業との連携を希望する中小企業へのビジネス支援や地方の産業クラスター等と台湾企業の交流促進などが進んでいます。

また、日台間での電子商取引の基礎をなす取決めが2013年に貴協会と台湾日本関係協会との間で署名されたほか、折しも日本政府では今年をスタートアップ元年と位置付けている中、貴協会では日本と台湾のスタートアップ・エコシステムの連携推進にも近年力を入れられていると承知しています。こうした貴協会の多岐に亘る御尽力に深く敬意を表させていただきます。

今後も、貴協会が引き続き我が国と台湾の架け橋となり、日台の交流や産業連携が更に進展していくことを祈念いたしまして、私からの御挨拶とさせていただきます。